様式５（第６関係）

発行　令和８年３月

研究レポート　No. 1213　　岩手県農業研究センター

施設きゅうりの摘心栽培における生育予測手法

【概要】

1　**施設きゅうり摘心栽培**において、7 日間隔で得られた**生育調査**データを対象に**周期性解析**を実施すると、向こう１ヶ月の「**草勢の強さ**」および「**成長（栄養成長・生殖成長）のバランス**」の推移が予測できます。

2　生育調査では、開花節直下の「**茎径（茎周）**」および「**節間長**」を調査します。また、早期から生育予測に基づく栽培管理を行うため、生育調査は活着後からを開始します。

3　温度管理等の環境設定を変更した場合、生育に影響するまで約 14 日かかります。環境設定の変更を短期間に繰り返すと生育が不安定になるため、環境設定の見直しは 14 日間隔とします。

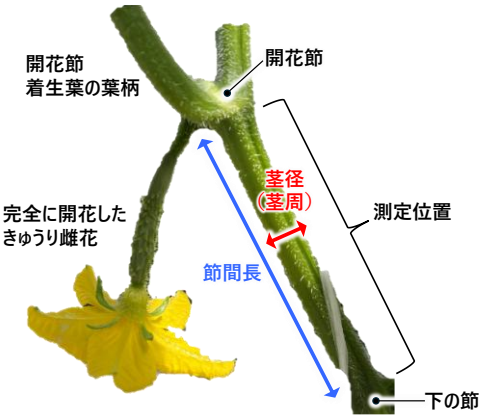

図１　生育調査の調査対象

4　予測結果に基づいて環境設定を適切に変更すると生育の振れ幅を**平準化**できます。

【試験データ等】

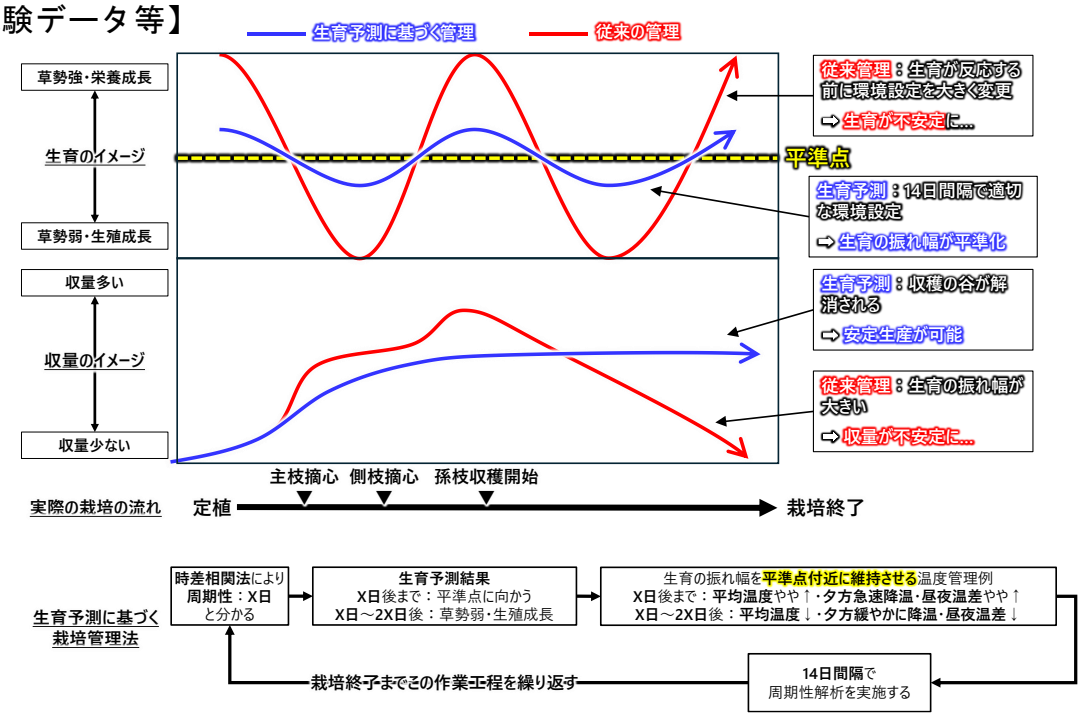

図２　従来の管理と生育予測に基づく栽培管理のイメージ比較

※　生育予測に基づいた栽培管理の実証結果および生育予測が容易に行える栽培支援ツールの配布範囲・動作環境・使用申請方法については、マニュアル（https://www.pref.iwate.jp/agri/nouken/shiryo/seika_manual/manual.html）を参照ください。

【令和７年度成果】施設きゅうりの摘心栽培における生育予測手法（R7-指-24）

担当　県北農業研究所　果樹・野菜研究室　　Tel. 0195-47-1074　Fax. 0195-49-3011